

中高一貫教育だより

～広尾の子どもは広尾で育てる～

第56号

令和2年

3月発行

発行者

広尾町中高一貫教育推進委員会



《中高一貫》 進路講話



継続的な勉強、自信への近道に

2月3日(月) 4校時目に、広尾高校3年生5名が、広尾中学校の全校生徒に向けて、自身の進路についての講話を行う、「中高一貫進路講話」が開催されました。高校生5名は、普段の勉強の取り組み方や、中学生の時から意識すべきこと、身につけたい能力などを、後輩たちに伝えました。高校生たちは、講話の数日前から高校で3回にわたってリハーサルを行い、中学生に対して自信に満ちた礼儀正しい姿を見せられるよう頑張っていました。当日は緊張もみられました。堂々たる態度で話すことができました。中学生たちは、高校生たちの話に静かに聞き入り、真剣な眼差しを向けていました。先輩の経験を自分のものとして受け継ぎ、さらなる高みを目指してほしいものです。

就職する大樹夢叶くん(広尾町役場)は、「自分は進路を決めた時期は少し遅かったが、部活動で礼儀作法を身に着けていたので役立つ」と、所属していた野球部での経験が就職活動にも活用できたことを強調しました。また、小堀なぎささん(帯広信用金庫)は講話を終えて、「今後、人前で話をする場面が増えてくると思うので、自分としても今回の経験を活かしたい」と今後の飛躍を誓っていました。進学する須藤花穂さん(名寄市立大学)は、「しっかりと勉強をしておくことが、自分の自信につながる」と伝え、継続的な勉強の重要性を強調しました。講話後に須藤さんは、「広尾のために自分ができることを、もっと考えていきたい」との思いを新たにしていました。また、鈴木志乃さん(浦河赤十字看護専門学校)は「早くから進路を自覚することが、進路活動の成功につながる」と語って中学生の自覚を促したほか、芝本蒼汰くん(札幌学院大学)は、「この講話をきっかけに、中学生たちが自分の進路を少しでも考えてくれれば」と、後輩たちへの思いを語りました。

SCCの記録

SCCとは、Secondary Collaborated Class の略称です。これは、多様な能力や様々な適性を持つ広尾の子どもたち一人ひとりに応じた「きめ細かな学習指導」を通して「基礎・基本の確実な定着」を図っていくために、中学校と高校が連携した合同授業や出前授業、TT、チューター学習などを行うものです。今回は、前号発行以降に実施された取り組みをご紹介します。

○理科



2月7日（金）3・4校時、広尾中学校において、中学校2年A組・B組を対象に理科のSCCが行われました。今回は、電流・電圧・抵抗の計算という、中学校理科分野の中でも苦戦する生徒が多い学習を、中学校と高校の教員がTT（=Team Teaching：複数の教員で学習を進める授業形態）で実施しました。

高校の関尾岳大先生と伊藤茜先生は、中学校の三宅史人先生、井下裕喜先生とともに、班ごとに分かれた中学生たちの中に入り、

計算問題に四苦八苦する中学生たちを丁寧に指導しました。計算式の立て方、具体的な計算過程など、つまずくところは様々でしたが、2人の先生の熱心な指導により、ほとんどの生徒が正しい答えを出せるようになりました。今回の学習内容の復習を繰り返すことで、今後の学力テストや高校入試など、どんな場面でも計算をすることができる知識と技術を身につけてくれることでしょう。



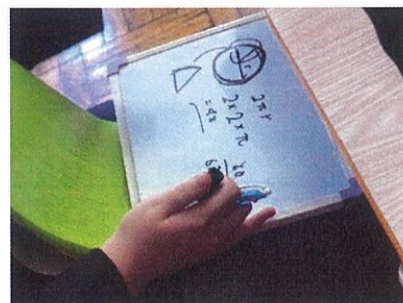
○数学



同じく2月7日（金）5・6校時、広尾中学校において、中学校3年生を対象に数学の中高交流授業が行われました。数学は今年度3度目の交流授業となります。今回の内容は、広尾高校2年生 Academic コース選択者が、中学生に過去の学力テストの問題について分かりにくい部分を教えるという、チューター授業です。高校生たちはその前日、互いに教え合って改善点を協議するなど、わかりやすく教えるために工夫を凝らしました。

当日、高校生たちは、グループごとに分かれた中学生たちに図を駆使しながら解き方や考え方を説明しました。努力の甲斐あって、教えを受けた中学生たちからは「高校生たちにリーダーシップを感じた」「優しく教えてくれたので分かりやすかった」などの声が聞かれました。高校生からは、「人に教えることは難しい」という気づきのほか、「受験前の中学生に解き方を教えることができてよかった」「先生はすごい、と思った」など、他者を思いやる発言が出てきていました。

高校の式場先生は、「教える経験をすることによって、中学校の学びの基礎を確実に定着させるとともに、相手の立場を考えることを身に付けてほしいと考えていました。その意味では、今回の授業は成功だと思います」と、自信を見せていました。



○家庭科

2月25日(火)3・4校時に、広尾中学校において、家庭科の食育講話として、広尾高校の相馬良美先生が中学1年生を対象に授業を行いました。

食育とは、自ら選択して健全な食生活を送ることができる人間を育てることです。相馬先生は、「バランスよく食べる」「朝ご飯を食べる」「感謝して食べる」「食品を無駄にしない」を四本柱として、講話を展開しました。



中学生たちは、食品ロスについて、班ごとに分かれて段階を踏んで考察しました。最近自分が捨ててしまった食べ物は何か。それはなぜ捨てたのか。食べ物が捨てられてしまうのはどんな場合なのか。どうしたら捨てないで済むのか。中学生たちは仲間たちと活発に議論しながら真剣に考え、自分たちがいかに食品を無駄にしているのか気づき、問題意識を新たにしていました。

相馬先生は、「親は命の時間を削って、皆さんのために料理を作っている」と強調します。今回の授業を受けて、中学生たちのご家庭では、親御さんが作る料理に改めて感謝するお子さんの姿が見られたことでしょう。

○国語

2月26日(水)、広尾中学校において中高連携授業が行われました。2・3校時には、中学1年生を対象に、中学校の古内麻衣子先生と高校の百澤薫先生がTTで作文指導を実施し、5・6校時には、中学2年生を対象に、高校の岡部哲也先生が説得力のある文章の書き方について指導を実施するという、ボリュームある一日となりました。

2・3校時は、「通学風景」をテーマにした作文を全員が書き出し、苦戦する生徒たちに2人の先生が文章の創り方を指導していく、という内容でした。

授業を行った高校の百澤薫先生は、「初めは3行くらいで書くことが尽きてしまった生徒も、アドバイスによってさらに書き足すことができるようになった」と、手応えを感じていました。



5・6校時は、「自分の大切なもの」をテーマに、その理由や、それにまつわるエピソードなどを説得力のある文章で表現する方法を指導する内容でした。中学生たちは課題に一生懸命取り組み、何とか論理的な文章を書こうと努力していました。中には、なかなか良い表現が見つからず書き出せない人もいましたが、岡部先生は巧みに彼らの思いを引き出し、作文をサポートしていました。

今回の授業によって、中学生の皆さんが自分の考えや思いを伝える力が、少しでも向上してくれたことを願ってやみません。

○その他

2月27日(木)3・4校時に予定されていた英語のSCCは、新型コロナウイルス流行の影響による全道小中学校の臨時休校で、中止となってしまいました。広尾高校では今年度2人の新たな英語教員を迎え、英語教育の一層の深化を図っているところですので、来年度の実施が期待されます。家庭科や書道も3月のSCC実施が予定されていましたが、残念ながら実施が難しい状況です。来年度、状況が落ち着きましたら、さらなる連携を推進してまいります。

令和元年度 北海道広尾高等学校 3 学年の進路状況

令和2年3月16日現在 3年生在籍 男子:22名 女子:25名 計:47名

<就職志望者 10名> 決定者数: 男子3名 女子7名 計 10名

進路区分	希望者数			決定者数			内 定 先
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	
就職町内	4	1	3	5	1	4	広尾漁業協同組合、農協サイロ(株)、十勝海運(株)(2名)、広尾町立養護老人ホームかもめ
就職管内	4	0	4	3	0	3	(株)大平原観光ホテル、帯広信用金庫、サンエイ牧場
就職道内	0	0	0	0	0	0	
就職道外	0	0	0	0	0	0	
公務員	2	2	0	2	2	0	広尾町役場、陸上自衛隊
就職者合計	10	3	7	10	3	7	内定率 100% (昨年同時期 100%)

<進学志望者 37名> 決定者数: 男子19名 女子18名 計 37名

進路区分	希望者数			決定者数			決 定 先
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	
4 大国公立(文系)	4	3	1	2	1	1	名寄市立大学、釧路公立大学
4 大国公立(理系)	2	1	1	0	0	0	
4 大私立(文系)	5	5	0	7	7	0	札幌大学、札幌国際大学、札幌学院大学(3名)、北海学園大学、創価大学
4 大私立(理系)	0	0	0	1	1	0	北海道科学大学
短 大 国 公 立	0	0	0	0	0	0	
短 大 私 立	3	0	3	3	0	3	北海道武蔵女子短期大学 帯広大谷短期大学(2名)
看護学校	5	0	5	6	0	6	帯広高等看護学院、浦河赤十字看護専門学校 日鋼記念看護学校、旭川厚生看護専門学校、 釧路労災看護専門学校、釧路市立高等看護学院
専門・専修学校	18	10	8	18	10	8	経専調理製菓専門学校(2名)、 経専北海道どうぶつ専門学校、 札幌放送芸術&ミュージック専門学校、 北海道芸術デザイン専門学校、 札幌こども専門学校、 北海道どうぶつ・医療専門学校、帯広コア専門学校、 札幌医療リハビリ専門学校、 大原法律公務員専門学校(2名)、 経専北海道保育専門学校、トヨタ自動車大学校、 北海道情報専門学校、北海道歯科衛生士専門学校、 日本航空専門学校、吉田学園医療歯科専門学校、 吉田学園情報ビジネス専門学校
進学者合計	37	19	18	37	19	18	合格率 100% (昨年同時期 90.9%)

<全 体>

	在籍者数			決定者数			進路決定率
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	
合 計	47	22	25	47	22	25	進路決定率 100% (昨年同時期 95.3%)

【 編 集 後 記 】

今年度の「中高一貫教育だより」は、これが最後の発行になります。学校生活を生き生きと過ごしている生徒たちの様子が少しでも伝わりましたら幸いです。また中高一貫教育の取組が、町民の皆様にご理解頂けますよう、広報誌の発行に今後も尽力していく所存です。今後ともご愛読くださいますよう、宜しくお願いいたします。